

地歴公民 (世界史探究) 東京大学 (前期) 1/3

第1問

5 10 15 20 25 30

- (1)モンゴル帝国解体後、ティムールが中央アジアからイランを支配したが、ウズベク人によりティムール朝が崩壊すると、イランはサファヴィー朝が支配し、インドにはティムールの子孫バーブルが侵入して建国した。このムガル帝国では、アクバルがジズヤ廃止など
- 5 イスラーム・ヒンドゥー両教徒との融和をめざしたが、アウラングゼーブがジズヤ復活などイスラーム重視に転じた。この間、ペルシア語圏の移民がイスラーム文化をもたらし、公用語のペルシア語と現地語が融合してウルドゥー語が成立した。宮廷ではイランから招かれた画家の影響でインドの画風と融合した細密画が発展し、
- 10 インドとイスラームの様式が融合したタージ=マハルも建設された。
- (2)スペインと勢力圏を定めたトルデシリャス条約に基づきポルトガルはアジアへ進出し、カリカットに到達しインド航路を開いた。火砲を用いて既存のイスラーム交易圏で優位に立ちゴアを拠点とすると、東南アジアのマラッカ王国を征服しマルク諸島の香辛料貿易に
- 15 参入した。中国では明の海禁下で密貿易に参入し、マカオの居住権を得て平戸を拠点に生糸と銀を交換する中継貿易を行った。ポルトガルの商業活動とともにザビエルらイエズス会士はキリスト教を布教した。17世紀にポルトガルはサファヴィー朝にホルムズを奪われ、禁教に伴う「鎖国」政策で日本への来航を禁じられ、マルク諸島
- 20 とマラッカもオランダに制圧されてアジアから後退した。

地歴公民 (世界史探究) 東京大学 (前期) 2/3

第2問

5 10 15 20 25 30

(1)

(a)労働を修道士の本分として重視したシトー修道会は、開発を進める各地の領主に誘致され森林を切り拓いて大開墾運動を推進した。

5 (b)当時温暖化傾向にあった気候が14世紀に寒冷化に転ずると、凶作や飢饉、黒死病の流行などで人口が減少し戦乱や一揆が頻発したことで、荘園経営に立脚した封建社会は崩壊の危機を迎えた。

(c)ア

(2)

(a)イブン=バットウータ

10 (b)ムスリム商人は三角帆のダウ船を操り、季節風を利用してインド洋から中国にいたる広大な交易ネットワークを構築した。

(c)マムルーク朝は西欧の十字軍を退け、侵入したモンゴル軍を撃退してシリアを保持し、メッカ・メディナの保護権を確保した。

(3)

15 (a)イヴァン4世治下のモスクワ大公国は、自治的な戦士集団であるコサックの首長イエルマークを用い、毛皮を求めて進出した。

(b)露仏同盟を締結してフランス資本を導入し重工業を発展させたロシアは、ウラジヴォストークと欧州を繋ぐシベリア鉄道の建設を進めた。三国干渉によって東清鉄道の敷設権を獲得し満洲・朝鮮への影響力を強めた結果、日英同盟が締結され日露戦争に繋がった。

第3問

5 10 15 20 25 30

- | | |
|----|---------------|
| | (1)青年トルコ革命 |
| | (2)ヴァイマル憲法 |
| | (3)公民権運動 |
| | (4)ウ |
| 5 | (5)ヴォルテール |
| | (6)ア |
| | (7)サッフオー |
| | (8)武則天 (則天武后) |
| | (9)ナポレオン法典 |
| 10 | (10)総力戦 |